令和6年度
下関高校生議会 記録
～スタートはわたしたちの声～

下関のシンボルマーク　フクフクマーク

フクを愛らしく、親しみやすく表現しています。囲みの円は下関の頭文字「し」とダイナミックな海の波を表しています。

日時：令和６年１２月２０日（金）
会場：下関市議会議場

下　　関　　市
下関市教育委員会

―１３：００開議―

○議会事務局長（村上泰二郎君）
　お知らせいたします。これより、高校生議員の皆さんが入場されますので、その際は拍手でのお迎えをよろしくお願いいたします。
　　〔高校生議員入場、拍手〕

１．会期の決定

○議長（香川昌則君）
　ただいまから、令和６年度、下関高校生議会～スタートはわたしたちの声～を開会いたします
　これより、本日の会議を開きます。本日の下関高校生議会は、「こども基本法」の基本理念に基づき、高校生が自己に関する意見を表明し、社会的活動に参画する機会を確保するとともに、いただいた提案等を、本市のこども施策の策定や、実施、評価に役立てようとするもの、また、高校生が模擬市議会を体験することで、議会の働きや市政の仕組みなどについて、理解と関心を高めていただくことを目的として開催するものであります。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。
　日程第１　「会期の決定」を議題といたします。
　お諮りいたします。
　下関高校生議会の会期は、本日１日限りといたしたいと思います。これに御異議ありませんか。
　　〔「異議なし」の声あり〕

○議長（香川昌則君）
　御異議なしと認めます。よって会期は、本日１日限りと決定いたしました。
　この際、島崎副市長より、挨拶したい旨の申出がありますので、これを許します。島崎副市長。
　　〔副市長島崎敏幸君登壇〕

○副市長（島崎敏幸君）
　議長からお許しをいただきましたので、下関高校生議会の開催に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。
　高校生議員の皆さん、こんにちは。（「こんにちは」の声あり）
　私は、下関市副市長の島崎敏幸と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、下関高校生議会、お忙しい中お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。また、この本議会開催に当たりまして、生徒の皆さんを

快く送り出していただきました、各学校長の皆様に前田市長に代わりまして、心より御礼を申し上げます、本当にありがとうございました。

さて、皆さんの中には、既に御存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、国におきまして、全ての子供や若者が、将来にわたって幸せな生活ができる社会を実現するため、「こども基本法」という法律がつくられております。

この法律の基本理念、ただいま香川議長からもありましたとおり、若者が自分に直接関係することに意見を言えたり、社会の様々な活動に参加したりすることが求められております。

今回の高校生議会、まさに皆さんが自分に関する意見を表明できる場であります。そして、私たち市役所にとっては、皆さんの意見を聞くことができる本当に貴重な機会だと思っております。

本日は、若者ならではの豊かな、感性あふれる視点、この視点から下関をこんなまちにしたいんだとか、そのためにはこうしたらいいんじゃないかといった御意見や御提案、これを私たち職員がしっかりと受け止めて、応えてまいりたいと思っております。時間が短いですけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

結びになりますが、本日の高校生議会の開催に当たりまして、御指導いただきました各学校の先生方、そして保護者の皆様、また、この議会開催に当たりましてお力添えを賜りました、香川議長をはじめ、下関市議会の皆様に感謝を申し上げますとともに、本日の高校生議会、これが皆様にとって、そして市にとって、実りあるものになることを心からお祈り申し上げまして、挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

２．高校生議員による提案・意見

○議長（香川昌則君）

日程第２　「高校生議員による提案・意見」についてを議題といたします。

この際、発言の方法等について、御説明いたします。皆さんの御手元にお配りしております通告一覧表の順序により、学校ごとに、初回は演壇で行い、終了後は質問席に移り、以降は、全て質問席で行います。また、各学校の持ち時間は、執行部からの答弁を含め、おおむね１０分といたします。

なお、執行部におかれましては、提案等の要旨を的確に捉え、簡潔にして、要を得た答弁をされるようお願いいたします。それでは、順次発言を許します。

１番、下関北高等学校、永富凛さん、有田克由さん。

〔下関北高等学校登壇、自己紹介〕

○永富　凛さん

私からは、人口減少に伴う空き家や廃校の有効活用についての質問と御提案をさせていただきます。

日本全国で進行する人口減少と少子高齢化は、下関北高校がある下関市豊北町にも深刻な影響を与えています。下関市の発表によると、豊北町の人口は、令和６年１０月現在７，３２３人で、１９７５年から約１万１，０００人減少し、２０６０年までにはさらに５，０００人の減少が予想されています。

また、人口減少に伴い空き家が増加しており、下関空家等対策計画によると、平成３０年に下関市全体で空き家が２万６，２３０戸あり、空き家率は平成２０年に１５．４８％、平成３０年に１８．５％と、増加している結果が出ています。その中でも、平成３１年のデータには、豊浦・豊北地区の空き家率は、１８．０％と、下関の他地区に比べ、最も高い数値になっています。

さらに豊北町の年代別の人口を見ると、１９７５年には２１％であった、ゼロから１４歳の人口割合は、２０２４年には５％に減っている一方で、６５歳以上の割合は、１５％から５７％に増加しています。こうした少子高齢化の状況を受け、豊北地区の小学校を見てみると、平成２３年に８校あった学校は、統廃合され現在１校となり、廃校となった学校校舎の利活用が課題となっています。

去る１１月１６日に、「リノベーターズサミットｉｎＨＯＨＯＫＵ　ＳＨＩＭＯＮＯＳＥＫＩ」が開催され、豊北地区の空き家をどうにかしようというムードが高まっていることは感じたところですが、地域の方からの空き家や廃校について心配する声も数多く耳にしています。

こうした点を踏まえ、２点質問させていただきます。今後の豊北地区の空き家対策について、市としての展望をお聞かせください。あわせて、廃校となって現在使用されていない校舎の利活用の計画についてもお聞かせください。

〇有田克由さん

続いて、私からは、高校生の視点で考えた廃校校舎の利活用として、婚活イベントを提案いたします。

昨今、多種多様な婚活イベントや、マッチングアプリが出会いの場として提供されていますが、婚活の場として廃校を利用すれば、かつて過ごした学校と

いう場所で、懐かしさを感じながら、多彩なアクティビティーを通して、親睦を深めることができるのではないかと考えました。

一般的な婚活イベントほどかしこまらず、学校に登校する感覚で参加し、リラックスした空間での交流を図ります。実際に、熊本県の高校では、学校行事で校舎を利用した婚活イベントが開催されています。

私もイベントの具体的な内容を考えてみました。家庭科室では、地域の食材を使った料理や、懐かしい給食メニューの再現を行う調理実習を実施し、参加者同士の交流を促進します。また、体育館では、ドッジボールやペアでのバドミントン、ミニ体育祭などを通じて、アクティブな交流を提供します。

さらに、各教室では、文化祭をイメージしたワークショップを開催し、写真スポットやお化け屋敷、カードゲームを用意して、参加者が自由に楽しめる空間をつくります。そして、グラウンドには高校生が中心となって考えた、自由に回れるショップを用意し、好きなタイミングで好きな人と関われる交流場面をつくります。

以上、廃校校舎の利活用案として婚活イベントを提案させていただきます。

〔下関北高等学校降壇、質問席へ移動〕

○副市長（北島洋平君）

御質問ありがとうございました。空き家と廃校の利活用、それから具体的な利活用の御提案としての婚活イベントということで御質問を頂きましたけれども、お話を頂いたように、空き家、廃校ともに利活用は非常に大きな課題で、これは、もう豊北に限った話ではなく、市全体としての課題と認識しております。

こちらは、やはり空き家にしろ廃校にしろ、使ってみようという、使ってくれる人がいるということが大事だと思いますので、その意味では具体的なイベントも御提案いただいて本当によかったなと思っているところでございます。

詳細については、部長のほうから答弁をさせていただきますけれども、いずれにせよ、使ってくれる人がいるということが大事なので、ぜひ皆さんもその視点で、高校生としてやれること、それができることを一緒に考えていただけたらありがたいなと思っております。それでは、部長のほうから答弁をさせます。

○総合政策部長（岸本芳郎君）

トップバッターというのは本当に緊張するものなのですけども、今、北高さんの質問をじっくり聞いておりまして、しっかりと堂々とした質問、いい質問を頂きました。ありがとうございます。私も負けないように答弁したいと思います。

下関北高等学校の皆さんが、今御自分たちが住まわれている豊北地区の現状を見つめて、自分事として、このたび地域の課題解決に向けたアイデアを御提案していただきました。本当に心強くすばらしいなと感じております。ありがとうございます。

まず、豊北地区の空き家や廃校の状況ですが、先ほど永富さんのほうからも御紹介がありましたように、空き家率が高くて、あと学校も１校になってしまったということなのですね。本当にこれは、本市が抱えるとても深刻な地域の大きな課題であると思っています。それ自体大変残念で、下関市としても、人口減少を食い止めて何とかしたいという気持ちはあるのですけども、ただ一方で、実はこれらは新たな可能性を秘めた財産でもあると考えています。

現在、皆さんの身の回りを見ていただいても分かりますように、今やデジタルやネットが生活する上でなくてはならないものになっていますよね。そのデジタルやネットワークの活用によって、時間と場所にとらわれない働き方というものが進んできています。

御存じのものもあるかと思いますが、例えば、働き方一つとっても、兼業や副業はもとより、オフィス以外で働くテレワークですとか、あと働きながらリゾート地で休暇を楽しむワーケーションですとか、あとさらには異なる二つの地域で生活拠点を持って、それぞれの地域で生活や仕事をするというような多様なライフスタイル、これが現在生み出されているのですね。

そのような中で、この下関市における空き家対策としましては、そのような時代の流れを的確に捉えて、新しい暮らしや働き方ができる場所として、この空き家を新しい使い方でよみがえらせる「リノベーションまちづくり」というものを推進しています。

もっと詳しく言いますと、このリノベーションまちづくりといいますのは、既存の建物などの資源や施設、これを活用しまして、地域の活性化やまちの再生を図る結構壮大な取組なのですよね。その取組を、御存じのとおり、豊北町におきましても、昨年度から空き家の活用も含めた移住定住政策として、若い世代の人たちが住みやすい地域を目指して、そして１人でも多くの人が住みたいと思ってくれるようにという思いで、頑張って取り組んでくれています。

また、質問いただきました永富さんにも先日御登壇いただきましたリノベーターズサミット、これは今申し上げました、リノベーションを通じまして地域の魅力を再発見し、新しい価値を創造していくという目的で開催されたイベントでしたが、そこで参加者の皆さんから、豊北地区の空き家をどうにかしたいという熱い思いを改めて感じていただけたのではないでしょうか。

空き家を地域の財産として捉え、そして活用することで、いろいろなライフスタイルが実現できて、みんながずっと安心して住み続けられるようなまちをつくる――つまり、持続可能なまちづくり、これを今下関は進めているところ

です。ぜひとも高校生の皆さんにも、若者ならではの視点で積極的に加わっていただければと思っています。

それから、次の質問ですが、廃校校舎の利活用の計画ですけども、現在、市内に廃校施設は１６校に上っており、その利活用は大きな課題であると認識しています。しかしながら、廃校施設につきましては、当然老朽化が進んでいることや、耐震診断を満たしていないなどの理由で、現段階では利活用の具体的な計画はございませんが、地域住民のコミュニティー施設ですとか、民間事業者や企業家、アーティストの活動拠点施設などといった施設の規模を生かした多岐にわたる活用策、これが考えられるのではないかと思っています。

そして最後に、廃校校舎での婚活イベントの実施の提案を頂きました。廃校の校舎はかつて過ごした学校という、どこか懐かしさやぬくもりを感じる場所ですね。ここに着目して利にかなった活用策として、熊本県での実用も紹介していただきながら、かつ、それを基にアレンジした具体的な内容も考えられている、この婚活イベントの開催を提案いただきました。

内容はとても斬新で、人口減少対策としても非常に効果的な取組であると思っています。廃校を使って家庭科室での給食メニューの再現ですとか、体育館でのミニ体育祭、いいですね。それから、各教室で文化祭をイメージしたワークショップなど、学校ならではのイベントを体験していただくすばらしい提案だと思いました。私も４０年若ければきっと参加するのだろうなと思うようなイベントでございます。

それはさておき、下関市としましても、提案いただいたこの婚活イベントの開催につきましては、廃校活用策の一つとして、地域住民や高校生の皆さんと一緒になって検討してまいりたいと思っています。そのため、今後これら取組を推進し実現していくためには、皆さんのようなふるさとを思う若者からのアイデアや意見を頂くことが大変重要となってきますので、ワークショップですとか、あとイベント、これを開催するなど、若者の皆さんが気軽に参加できる機会を提供して、市と皆さんと一緒になってふるさとのまちづくりを進めていきたいと考えています。

○議長（香川昌則君）

有田克由さん。

○有田克由さん

本日はこのような機会をくださり、ありがとうございました。これで下関北高等学校の提案を終わります。(拍手)

○議長（香川昌則君）

２番、梅光学院高等学校、麻野ひよりさん、篠原夢叶さん。
〔梅光学院高等学校登壇、自己紹介〕

○麻野ひよりさん
私たちは、歴史ある工芸品や豊かな自然を生かし、観光客や地域の人々に印象に残るようなすてきなまちにするため、以下のことを提案いたします。モニターを御覧ください。
〔説明資料を議場内ディスプレーに表示〕

○麻野ひよりさん
学生主催によるイベントの開催です。下関の工芸品である赤間関硯の書道体験イベントを開催し、伝統工芸の魅力に触れる機会をつくること、下関の特産品を使った郷土料理を提供するスペースを設置することを提案いたします。
書道体験で紹介する赤間関硯は、８００年以上の歴史を持つ下関を代表する伝統工芸品です。この体験型イベントを通じて、歴史ある工芸品への興味を持ってもらい、外国人観光客には、日本の伝統工芸品のお土産として、興味を持ってもらえることが期待されます。
そこで、このイベントをみもすそ川公園で開催することを提案します。みもすそ川公園の前に広がる海は「早鞆の瀬戸」と呼ばれ、壇之浦古戦場を一望でき、当時をしのぶ石碑や歌碑も見ることができます。しかし現在、車やバスから見える景色で満足されてしまう部分もあります。そこで、みもすそ川公園でイベントを開催し、併せて郷土料理を提案することで、下関の美しい景色を一望しながら地域の魅力を存分に楽しんでいただけると考えます。
また、このイベントを学生が主催することで、若い世代の手で直接下関の魅力を伝えることができ、下関の未来を考えるきっかけになるのではないでしょうか。さらに、このイベントを通して、市民が下関の魅力を再認識できるのはもちろん、幅広い年代や他県からの知名度が上がり、地域の活性化につながると考えます。

○篠原夢叶さん
また、これらのイベント、観光場所などを宣伝する際、バス車内アナウンスを活用することが大きな影響力を持つ宣伝方法であると思います。

その理由として、バス利用者の耳に自然に入り「この停留所に体験イベントや観光場所がある」という意識を定着させることが可能となる点、公共交通機関の中でのアナウンスであることから、知名度、信用度をアップできる点などがあるからです。

工夫点としては、アナウンスの声を学生の声でやってみることです。学生の声は若く親しみやすさがあり、観光客に対してフレンドリーな印象を与えることができたり、同年代の若者や学生層に対しても親しみやすく、学生目線でお勧めするスポットや体験イベントを宣伝できることから、観光客のターゲット層を広げることができる非常に高い宣伝効果であると考えたからです。

また、学生自身がバスツアーでのツアーガイドを務めることも観光の質の向上や地域経済の活性化につながると考え、地域の人々も観光客と触れ合うことの重要性について理解することができます。

最後に、イベント開催では、歴史ある景観や豊かな自然を生かしたＳＮＳ映えする写真を撮影し、心に残る思い出をつくることによって「また下関に行きたい」と思っていただき、再訪意欲を高められると考えています。

以上で私たちの提案とさせていただきます。ありがとうございました。

〔梅光学院高等学校降壇、質問席へ移動〕

○副市長（北島洋平君）

麻野議員、篠原議員、大変すてきな御提案ありがとうございました。イベント二つと、それからアナウンス、それからバスツアーのガイドということで御提案を頂きましたけれども、先ほどの答弁でも申し上げましたが、やはり何かをしようというときには、誰がやるのか、自分ができるのかということがすごく大事だと思っているのですけれども、皆さんの御提案はいずれも私たち学生自身ができるのではないかという視点であふれておりまして、非常にすばらしい御提案を頂いたなと思っております。

詳細につきましては、この後また部長のほうから答弁申し上げますけれども、いずれにしても、そうやって皆さんが関心を持ってくださって、自分でできることをやっていく。それを、学生の皆さんもそうですし、市民の皆さんあるいは事業所の皆さん一人一人がそれをやっていくということが合わさったのがやはりまちであり、観光であると思いますので、またぜひ、この答弁をさせていただくことも踏まえて、実現に向けて、一緒に御協力いただけると大変幸いでございます。それでは、詳細は部長のほうから答弁いたします。

○観光スポーツ文化部長（田中一博君）

下関の未来ということで、三つの御提案を頂きました。一つ目が、みもすそ川公園で、学生主催による書道体験、郷土料理提供のイベントでございますけ

れども、具体的に根拠も添えて御提案を頂きました。ありがとうございます。
　地域資源を活用した体験型イベント、この地域資源というのは、今回は赤間関硯、みもすそ川公園からの歴史を感じることができる景観、そして郷土料理ということでございましたけれども、加えて学生主催というところで、若い世代が下関の魅力を発信するという要素まで入れていただきました。若い皆さんに下関への愛着、誇りを持っていただくということは、市役所の私たちにとっても最も望んでいることの一つでございますし、また市民が下関の魅力を再認識できる、地域活性化につながるという、こういうイベントを学生さんが主催するということで、下関の未来を考えるきっかけになるとも言っていただいて、本当に心強いと思いました。
　二つ目の御提案では、バスの車内のアナウンスで、イベントや観光スポットを紹介する声も学生の声がよい、学生の目線でお薦めする宣伝が大変効果的だということ。
　また三つ目では、ツアーガイドも学生が務めるということで、若い皆さんが生き生きと活動されているところが見えるまちというのは、本当に魅力的で、観光客も増えるし、またリピーターが本当に来ていただける、そういうところになるのだろうと思いました。
　今回日本の伝統工芸を取り上げていただきましたけれども、伝統工芸のよさを日本人にも認識していただきたいし、また外国人であったら、日本の文化に触れていただける機会を提供するということになると思います。観光庁のアンケートでは、外国人の観光客が日本に滞在したことで満足度が高いのは、日本食を食べることと、日本の歴史・伝統・文化体験という結果が出ていました。観光客のニーズに合った御提案をしていただいたと思っています。
　これからこの御提案も含めまして、学生の皆さんと一緒に取り組みたいという事業を我々のほうでも考えることがあると思います。ぜひそのときには御協力のほうよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○議長（香川昌則君）
　麻野ひよりさん。

○麻野ひよりさん
　本日は、このような機会を頂き、ありがとうございました。下関の魅力について再確認することができ、とてもよい経験になりました。これで梅光学院高等学校の提案とさせていただきます。(拍手)

○議長（香川昌則君）
　３番、下関南高等学校、林真生さん。早田愛加里さん。

〔下関南高等学校登壇、自己紹介〕

○林　真生さん
　それでは、僕たちから質問と提案をさせていただきます。早速ですが、僕たちの提案は、

○林　真生さん
○早田愛加里さん
　「過疎地域等でのＡＥＤのお寺や神社での設置を補助してはどうか」
　　〔二人で発言〕

○林真生さん
　ということです。初めに、僕はＪＲＣ部というボランティアや赤十字などの活動をしている部活動に所属しています。そして、以前その部活動の一環で、山間部にあるお寺に行き、その際、赤十字についてや救命法などを学んだり、地域の子供たちのタケノコ掘り体験をサポートするボランティアをしたりしていました。
　そこへは公共交通機関を使って行ったのですが、都市部から行くにはかなりの時間を要したほか、その地域はコンビニなどそういった施設も少なく、施設やインフラの整備が行き届いていないように感じました。そして、部活動で学んだこともあり、緊急時に対応ができるのかとても疑問に思いました。
　ここでは、人の命というところを軸に話をしていきたいと思いますが、山間部や過疎地域において、救急車を要請したとき、現場へ到着するまでに一体どれぐらいの時間を要してしまうのでしょうか。また、施設も少ない地域ですが、ＡＥＤの設置状況はどうなのでしょうか。
　ＡＥＤは主に施設に設置されているという認識ですが、その施設が休業している日や、はたまた夜間、早朝にもＡＥＤは取れるのでしょうか。救急車も１０分以上かかってしまったり、ＡＥＤが取れなかったりしてしまえば、御高齢の方も多い山間部、過疎地域といったところでは、救えたはずの命すらも救えなくなってしまうのではないでしょうか。以上のことを踏まえ、僕たちは冒頭のような提案をさせていただきます。

○早田愛加里さん
　山間部などにコンビニや施設が少なかったとしても、お寺や神社は多いよう

に思いました。さらに、そういったところだと、たくさんの人が利用するため、整備もされていたり、地域における公共性もあるため、立入りやすかったりと、ＡＥＤを設置する上で利点も多いのではないでしょうか。

ＡＥＤが必要になったときに、すぐに設置場所が分かり、基本的にいつでも取ることができる場所を考えると、お寺や神社はうってつけの施設だと思います。さらに、ＡＥＤの設置場所を明確にすることができ、万が一の事態が起こった場合に、ＡＥＤの設置場所が分からずに困ったり、迷ったりすることも少なくなり、時間の無駄を省くことにもつながります。

これらの理由から、お寺や神社にＡＥＤを設置することは、時間を問わず利用ができる点や、様々な人に優しい取組だと言えるでしょう。ゆえに、山間部や過疎地域において、お寺や神社でのＡＥＤの設置の補助をすることを提案します。以上です。御清聴ありがとうございました。

〔下関南高等学校降壇、質問席へ移動〕

○副市長（島崎敏幸君）

下関南高等学校、林議員、早田議員、御質問ありがとうございました。山間部、過疎地域におけるお寺、神社へのＡＥＤ設置補助ということで、実はですね、この今の御質問、市におけるＡＥＤの設置の状況というのは、先日の１２月に市議会があったのですが、本当にそのような御質問を市議会議員から頂きました。

特に御指摘の、施設にＡＥＤがあるけれども、営業時間外あるいは早朝、使えないではないかという御質問を頂き――本当に使えないのです。それは、これから対応していかないといけないということは、議会でも申し上げました。本当に鋭い御質問で、御指摘でございました。

また、そういったＡＥＤに関するやり取りは、市のホームページで、市議会議員と我々執行部のやり取りをホームページで見られますので、ぜひおうちに帰ってまた御覧いただきたいと思います。改めまして、今御質問いただいた内容につきましては、執行部のほうから説明させていただきます。

○消防局長（髙橋秀尚君）

ただいま山間部、過疎地域におけますお寺や神社へのＡＥＤ設置補助についての御提案を頂きました。誠にありがとうございます。その中の、山間部や過疎地における救急車の現場到着時間の質問についてでございますが、道路状況や交通事情によりまして、到着時間は左右されますけれども、管轄面積が最も広い豊北町滝部にあります豊浦西消防署豊北出張所におきましては、最も距離がある角島灯台まで距離が約１７キロで、到着までに約２５分かかります。なお、令和５年の下関市における救急車の平均現場到着時間は、１０．８分とな

っております。

○保健部長（八角　誠君）
　それでは、ＡＥＤの設置状況についてお答えいたします。下関市では、厚生労働省の示すＡＥＤの適正配置に関するガイドライン、これに沿ってＡＥＤは設置されています。山間部、過疎地域においてもこのガイドラインに沿って、市の庁舎、それから公民館、小中学校、スポーツ施設、集客施設、高齢者施設などに設置をしているところです。
　ＡＥＤが使用できる時間帯ですけども、山間部、過疎地域を含めて、ＡＥＤは言われたとおり、施設に設置されることが多くあります。２４時間開館している施設は使用可能となりますけども、そうではない施設については施設閉館中は使用できない状況であるということでございます。副市長のほうからもありましたけども、その状況を少しでも改善するために、どうやっていったらいいかというのを今検討しているところでございます。
　それから、山間部や過疎地域におけるＡＥＤのお寺や神社への設置補助の御提案でございます。安定した社会の安全面としての救命インフラ、これを築くためには、客観的な基準に基づいてＡＥＤをより公平かつ効果的、効率的に配置していくということが必要になってきます。設置場所の利用しやすさ、これに加えて、心停止発生から長くても５分以内にＡＥＤの装着ができるということが必要になってまいりますので、地域のランドマークとなるお寺や神社の周りにどのぐらい民家があるのか。また、心停止の発生頻度はどうなのかということなどを考えながら、効果的、効率的な配置について今後も検討してまいりたいと考えています。

○議長（香川昌則君）
　林真生さん。

○林　真生さん
　まず、本日はこのような機会を頂き、本当にありがとうございます。そして、議会でも実際に出ていたということを聞きまして、とても驚きを隠せない状況でございますが、こうした議会という場で発表ができる、発言ができるということは、とても僕自身の財産にもなりますし、とても光栄なことだなと思います。改めまして本当にありがとうございます。
　これで、下関南高等学校の提案を終わります。（拍手）

○議長（香川昌則君）
　４番、下関短期大学附属高等学校、篠崎杏さん、竹元來未さん。

〔下関短期大学付属高等学校登壇、自己紹介〕

○篠崎　杏さん

私たちからは、観光客との交流について提案します。今年ニューヨーク・タイムズが発表した、世界で行くべき場所５２か所に、山口市が第２位に選ばれました。そこで、下関市が一人一人の行くべき場所、行きたくなる場所に選ばれるために、私たちが学んでいることを念頭に考えてみました。

○竹元來未さん

令和５年度の下関市観光客数は約５００万人です。約半数が訪日外国人の方です。下関市には歴史的建造物が多々あります。下関市は、日本の行方を左右する大きな出来事が起こった地で、壇之浦、巌流島、幕末には高杉晋作が身分を超えた奇兵隊を結成した功山寺。ほかにも、旧下関英国領事館や住吉神社、また、景色が楽しめる角島、おいしいお魚でおなかが満たされる唐戸市場、このように魅力的なスポットが多くあり、たくさんの人たちに訪れてもらえると思います。

○篠崎　杏さん

そこで、私たちは対象者を区分して、二つの下関散策コースを提案します。まずは海外の方、御年配の方に向けた「癒やしののんびりコース」です。海外の方は、その土地でしか見られない景色や歴史をゆっくり見学し観光する傾向が見られます。そこで、景色や季節ごとの特徴、伝統的な文化財や下関自慢の食文化をゆっくり楽しんでもらえるようなコースを設定しました。

具体例として、歴史ある建造物や歴史的文化財を巡り、朝食には「瓦そば」などの郷土料理、デザートには下関の銘菓です。例えば、「巌流焼き」はいかがでしょうか。可能であれば、工場見学を兼ねて、実際に巌流焼きを作る体験を取り入れてみるのです。そして、夏休みの長期休暇中には、私たちが主体となってイベントを開催し、訪れていただいた方には、観光スポット先で高校生が対面ガイドを行います。本校の普通コースには、基礎学力の向上を図る授業があり、そこで学んだことを生かして、私たちならではのガイドができたらい

いなと思います。

○竹元來未さん

次に、親子連れの方に向けた「楽しく下関を学ぼうコース」です。私たちは今保育コースで学んでいます。そこで、私たち保育コースの生徒が幼児から小学生までを対象としたクイズラリーや、体育館、公民館で交流の場を設けて、観光客の方に参加していただくのはいかがでしょうか。

クイズラリーでは、各観光スポットで高校生が出迎え、クイズを通して下関のことを知ってもらいます。交流の場では、私たちが制作した親子向けの特設エリアで楽しんでもらい、少し疲れたときには、私たちに子供を預けていただき、隣で甘いものを食べて休んでもらうこともできます。

これら二つの下関散策を、私たち高校生が主体となって活動することで、観光客の方に下関により親しみを持ってもらえるのではないかと思います。以上が、私たち下関短期大学付属高等学校からの提案になります。

下関市として観光に関する今後の取組についてお聞かせください。

〔下関短期大学付属高等学校降壇、質問席へ移動〕

○副市長（北島洋平君）

篠崎議員、竹元議員、誠に御質問ありがとうございます。ぜひ、観光コースを考えたらいいのではないかということで、二つのコースの御提案を頂きました。いずれもすばらしい御提案だったと思います。

観光といいますと、基本――いろいろな言い方ができますけれども、一つの分け方としては、個人旅行とツアー旅行というのがありまして、ツアー旅行のほうは今どんどんむしろ減っていて、個人旅行が中心の世界に来ているという話がありまして、特に冒頭インバウンドのお話も頂きましたけど、海外から個人で手配していらっしゃるお客さんのことを、ＦＩＴと呼んだりしていて、そういったものは一つのジャンルとして非常に本市としても注目をしているところでございます。

個人旅行となりますと、やはりツアーと違って自分でどこに行くかを決められるというのがいいことですけど、逆に言うとそれが大変なところでもあるという中で、具体的にこういう方に対してこういうコースはどうですかというのを御説明できるというのは、非常に旅行で訪れてくださる皆さんにとっては参考になりますし、大変ありがたいものなのではないかなと思います。

そういったものは、結構旅行雑誌とかにはもちろんいろいろなコースが載っているのですけれども、それとはまたちょっと違って、まず、皆さん御提案いただいたみたいに、例えば高校生とこういうことができますよとか、そういう特別な体験、あるいは交流の提案ができるコースというのは、やはり普通の雑

誌に載っているおすすめコースとは、また一味違った魅力が出るのではないかなと思いますので、そういったものを御提案をいただいて、我々のほうからも発信をしていくというのは非常に有意義な取組ではないかなと感じました。

また詳細につきましては、観光スポーツ文化部長のほうから答弁させていただきます。

○観光スポーツ文化部長（田中一博君）

下関短期大学付属高等学校の皆さん、二つの下関の散策コースを御提案いただいたということで、それと下関市の今後の取組についても御質問を頂きましたので、少し触れたいのですけれども、我々のほうで、ちょうど今、来年から５年間の期間の観光交流ビジョンというものをつくっております。

皆さんのように、観光について考えていただいている市民の皆様とか、観光関連の事業者さんなどと、それぞれの役割を果たしながら一体感を持って観光振興に取り組んでいこうという、その指針といいますか、方向性をお示ししよう、そう考えているものでございます。

ちょうど１月、来年の１月の後半からパブリックコメントといって、市民の皆様の意見を頂くというものをやります、ホームページとかでですね。その案を見ていただいて、ぜひ御意見を頂きたいなと思うのですけれども、よろしくお願いします。

今回、巌流焼きづくりの体験コースを、コースに織り込んでいただき、御提案いただきましたけれども、観光交流ビジョンの中でも、市内の市民の方、事業者さんが連携をして、下関ならではの魅力的な体験ができる観光地を目指すというふうに、ビジョンの中に入れたいなと考えているところでございます。

下関は本当に魅力にあふれる都市でまちだと思います。ぜひ皆さんが主体のイベントで観光客をもてなしていただいて、そうしましたら、観光客の方々もきっとリピーターとしてまた来ていただけると思います。市としても、そのように観光客に向けておもてなしをしていただいている方々に、それがやりやすいという環境を整えるということとか、また下関の魅力をさらに多くの人に届けるというような形で努力をして、皆さんのおもてなしを受けていただけるようにしていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

○議長（香川昌則君）

篠崎杏さん。

○篠崎　杏さん

貴重な御意見ありがとうございます。下関発展のために、私たちも主体的に頑張っていきたいと思います。これで下関短期大学附属高等学校からの提案を

終わります。（拍手）

○議長（香川昌則君）
　この際、暫時休憩いたします。再開は１４時といたします。

―１３時５０分　休憩―
―１４時００分　再開―

○副議長（安岡克昌君）
　休憩前に引き続き、会議を開きます。「高校生議員による提案・意見」についてを継続いたします。５番、下関商業高等学校、吉山嬉々さん、濱田ひよりさん、加藤志歩さん。
　　〔下関商業高等学校登壇、自己紹介〕

○吉山嬉々さん
　私たちは、「下関の観光業を活発に」というテーマで提案します。下関市の最大の課題は、人口減少に伴う都市力の低下です。下関市の地域再生計画によると、人口は１９８０年代をピークとして減少傾向にあり、２０２０年の人口は２０１０年に比べて９．２％減少の２５万５，０５１人となっています。特に、アクセス性が優れている近隣大都市である、北九州市への流出が最も多くなっているということが分かりました。

　そこで、下関市が移住地としても選ばれる場所となっていくために、観光業という視点に着目し、私たちは、下関の観光業を発達させるために三つの提案をします。まず一つ目は、角島大橋、唐戸市場、川棚温泉などの観光名所が記載された標識の設置です。現在、高速道路を降りたところにある標識には、観光名所の名前が記載されておらず、町の名前だけが記載されています。それでは、観光名所の場所が伝わらず、アクセスしづらいのではないかと考えました。標識の設置をすることで、アクセスしやすくなり、より下関を堪能してもらいやすくなると考えます。

○濱田ひよりさん

二つ目は、屋内型テーマパークの開設です。現在、唐戸では都市開発が行われており、はい！からっと横丁は、約２年後に閉園することになっています。そうすると、下関から代表的なレジャー施設がなくなってしまいます。下関市では、子供連れの家庭を対象とした遊戯施設が多いです。そのため、中高生を対象としたアスレチックなどの体を動かすことのできる遊戯施設があるといいと考えられます。このような屋内型テーマパークを開設することで、子供連れの家庭だけでなく、中高生が下関を訪れ、楽しむことのできる場が増えると思います。

○加藤志歩さん

三つ目は、自然をメインとした宿泊施設やグランピング施設の開設です。豊北町を例に考えます。下関市公式観光サイトの資料によると、令和５年度の豊北町の角島や道の駅などの観光客数は、約７８万人なのにもかかわらず、宿泊客数は約６万人だと記載されていました。この結果を見ると、宿泊数が大幅に少ないことが分かります。

なぜこんなにも観光客数と宿泊客数に違いがあるのか考えた結果、下関の宿泊施設が少ないことに原因があると考えました。そこで、角島などの海を一望できる宿泊グランピング施設などを開設し、下関の豊かな自然を身近に感じることのできる場所を提供することで、宿泊施設をもっと増やせるのではないかと思います。これらの提案が実現することで、下関の観光業はより一層発達し、多くの人に愛される下関になるのではないかと考えます。

〔下関商業高等学校降壇、質問席へ移動〕

○副市長（北島洋平君）

吉山議員、濱田議員、加藤議員、それぞれからすばらしい御提案を頂きまして誠にありがとうございます。

人口減少というところからお話が始まって、そのために観光を盛り上げていくべきではないかということで御提案を頂きましたけれども、まさしく、観光というのはやはりちょっと軽く考えると、別に観光に来た人が住むわけではないから、人口とどう関係があるのかと思われることもあるかもしれないですけど、実際には観光業という事業、業種が盛り上がることによって、もちろん雇用も生まれますし、仕事ができるから人が住めるという部分もあります。

それからもう１個は、やはり観光地として知っていただいて、来ていただくことで――交流人口と言ったりしますけれども、下関のことを知ってもらえる、もっと好きになってもらえる方が増えることが、移住につながるという側面も

ありますので、おっしゃっていただいたとおり、人口増との関係では、観光業というのはすごく大事なものでございますので、すごくいい着眼の御指摘を頂いたなと思っております。

頂いた内容につきましては、まずはアクセスの問題、どうやって目的地に行くのかというところで標識が足りないのではないかというお話。それから次に、もっとテーマパークがあったらいいのではないか。はい！からっと横丁は、別になくなると決まったわけではないのですけども、土地をお貸ししている期限が来るので、また公募をしますよという話をしているという段階なのですが、いずれにせよ皆さんが行きたくなる目的地が必要ではないかという話、最後に泊まる場所が必要ではないかという話で、非常に観光が抱える課題を広く見ていただいて、それぞれ、どれも重要な論点だと思います。

標識も、道路標識の話、自動車の話もあれば、歩いている方が、例えば下関駅から唐戸市場まで――２キロぐらいありますけど、どうやってたどり着くのかという話があったりとか、テーマパークもおっしゃっていただいたみたいに、中高生向けなのか何なのか、どういう人をどういうターゲットにしてやっていくのかとかあったりとか、宿泊施設も――大きなホテルは星野リゾートもできますけれども、そういったものとはまた違う魅力を提供する、グランピングみたいなものも幅広くあっていいのではないかとか。いずれも非常に楽しいお話だったと思います。本当にありがとうございます。

詳細につきましては、また観光スポーツ文化部長のほうから答弁をさせていただきます。

〇観光スポーツ文化部長（田中一博君）

下関の観光を活発にということで、三つ御提案を頂きました、ありがとうございます。一つ目の御提案は、観光名所の標識の設置ということで、下関のインターチェンジを降りたときに、行き先に対してどちらの道に出ていいのか分かりにくいというような声は、本当にお聞きしています。

このインターチェンジの標識に限らず、下関市に来られた来訪者の方々の目線で、分かりやすい標識を設置しなければいけないと思います。海外からの観光客にも分かりやすくないといけませんし、どの場所にどの観光地を示す標識を設置するのが適切なのか、また標識が、最近デジタルの技術のものも出てきていますので、研究してなるべく早く対応していかないといけないと思っています。

二つ目の御提案ですけれども、中高生を対象にした屋内型のテーマパークの開設ということで、最近の夏は大変な猛暑ですので、屋内で体を動かせる施設が必要だという御提案は、本当にそうだと思います。テーマパークと言えば、遊びに行くとなるとわくわくする気持ちにもなると思います。

テーマパークをすぐにつくりましょうというのはちょっと難しいと思いますので、少し違う話にはなるかもしれないのですけれども、下関では、今年８月に総合体育館、Ｊ：ＣＯＭアリーナが完成しました。スポーツをする市民にとっても待ちに待った施設でございまして、テーマパークとは違いますけれども、ぜひ行って利用していただきたいと思います。空調も整っていまして、いろいろなスポーツをする、またプロのスポーツを見るというチャンスも増えてまいりますので、ぜひ行っていただき利用していただきたいと思います。

それとあと、火の山のほうが今再整備を進めていまして、アスレチックとかキャンプ場の整備を進めています。屋内の施設ではないですけども、ロープウエーも新しく、パルスゴンドラに生まれ変わります。また、新しい屋外、屋内の展望台とか、観光客や市民にも、どの年齢の方でも楽しんでいただける場所になるはずでございまして、ぜひ楽しみにしていただきたいと思います。

三つ目は、自然をメインとした宿泊施設、またグランピング施設の開設でございます。先ほども少し御紹介しましたけども、観光交流ビジョンを今つくっておりますけれども、下関市には宿泊施設が不足していると認識しています。

来年の秋にはあるかぽーとに、リゾナーレ下関が開業しますけれども、まだほかにも宿泊施設ができてほしいなと考えています。自然をメインとした施設、グランピング施設という御提案も、観光客が下関に求めているこの自然の景観とか食に対応するものにできると思いますし、ぜひ実現させたいなという、そういう提案でございました。どうもありがとうございます。

○副議長（安岡克昌君）

吉山嬉々さん。

○吉山嬉々さん

御答弁いただきありがとうございます。このような場に参加できたことをうれしく思います。本日は、ありがとうございました。これで、下関商業高等学校の提案を終わります。（拍手）

○副議長（安岡克昌君）

６番、豊浦総合支援学校、松宮悠翔さん。

〔松宮悠翔さん登壇、自己紹介〕

○松宮悠翔さん

私は、下関市の救急医療体制の整備及び治療を必要とする子供たちの教育の保障について２点質問させていただきます。実は、これまでにも下関市の医療体制などについて要望したいと思い、市のホームページなどを活用しようと考えたことがあります。その際、記入項目が多く、難しさを感じて投稿を断念しました。だからこそ、本日は、直接意見を述べることができるので、大変うれしく思っております。

私は、小学２年生の頃、当時通っていた小学校前の道路で、交通事故に遭いドクターヘリで、宇部市の山口大学附属病院へ運ばれた経験があります。そして、約９か月間入院し、事故の影響で左手足に麻痺が残り、高次脳機能障害とも診断されました。私自身、宇部の病院ではなく、近くの豊浦総合病院や、下関総合病院への搬送ができていればもっと早くに治療に取りかかれたり、リハビリができたりしたのではないかと思っています。また、地域によっては、病院に行きたくても移動手段がない。急に体調を崩したが無人駅のため、助けを求めることができないということも懸念されます。

小学校当時の私は９か月間の間、入院生活を送ってきたために、その期間の学習空白も生まれました。宇部市には院内学級が整備されていますが、下関市には、その院内学級が整備されていないと聞いています。現在、私が在籍している学校では、他県の病院に通って、遠隔操作ロボット「ＯｒｉＨｉｍｅ」を使って同級生との思い出の共有や、学習保障、学校行事に参加している生徒がいます。私自身、入院中に勉強したり、同級生と関わったりすることができていればと思い返すこともあり、教育を受ける権利についても保障されてほしいと願っています。

以上のことを踏まえて、２点伺います。１点目として、今後の旧郡部を含めた救急医療体制について、下関市はどのようにお考えか、御回答いただきたいと思います。私自身の経験から、下関市でドクターヘリを受け入れる病院を増やしてほしいと願っています。

２点目として、長期入院している子供たちへの教育の保障についてどうお考えか、お聞かせ願いたいと思っています。私がお伺いしたいことは、以上の２点です。

最後になりますが、私も社会自立に向けて、支援学校に通いながら頑張って

いるところです。私も生まれ育った下関市が大好きです。多くの人々が助け合いながら安心して過ごせる下関市であってほしいと思っています。御清聴ありがとうございました。

〔松宮悠翔さん降壇、質問席へ移動〕

○副市長（島崎敏幸君）

豊浦総合支援学校、松宮議員、御質問ありがとうございました。このたびは、「救急医療体制の整備及び治療を必要とする子どもたちの教育の保障について」という御質問、大変重く受け止めさせていただきました。

松宮議員の御自身の御経験、本当に大変な御経験をされたということで、そうは言いながら、松宮さんのように大変よく勉強されて、また前向きに生活をしてらっしゃるというところで、私は大変頼もしく感じましたし感動もいたしました。

市としても、頂いた提案、本当にこれは実体験――今も頑張ってらっしゃると思うのですが、その経験に基づくものは本当に説得力があります。市としても、松宮議員のような方の話をもっともっと聞かないといけないと思っています。

冒頭市のホームページも、なかなか使いづらかったというところ、その辺りも含めて、本日の質問につきましては、先ほど教育を受ける権利についての保障という大変重い問題でもあります。しっかりと市としても受け止めてまいりたいと思います。

今後も、松宮議員におかれましては、リハビリをしっかり頑張ってもいただいて、よろしくお願いいたします。応援しています。つきましては、保健部長それから教育長から、答弁をいたします。

○保健部長（八角　誠君）

それでは、保健部のほうからは、救急医療体制についてお答えいたします。現在下関市において、手術を必要とするような救急医療――二次救急医療と申しますけども、この二次救急医療に対する体制といたしましては、関門医療センター、それから下関市立市民病院、済生会下関総合病院、下関医療センター、この４病院によって、総合支所管内も含めた市内全域の救急患者さんを２４時間体制で受け入れるという形になっています。

また、総合支所管内の病院では、済生会豊浦病院、それから市立豊田中央病院、この二つを拠点として救急患者の受入れを行っています。今後も、総合支所管内においては、済生会豊浦病院や市立豊田中央病院を拠点としつつ、二次救急医療を担う４病院との連携を図りながら、救急医療体制の強化を図っていきたいと思っております。

なお、現在の山口県のドクターヘリ、こちらの運航体制ですが、山口大学医学部附属病院を基地病院として、市内全域において往復３０分以内での救急搬送が可能となっており、患者さんの状態に応じて市内の４病院、こちらに運ぶことも行えるような体制となっています。

○教育長（磯部芳規君）

長期入院をしている子供たちへの教育の保障についてお答えいたします。下関では、子供たち誰一人学びから取り残さない教育に取り組んでいるところでございます。子供たちの入院期間の学習の保障をしていくということはとても大切なことだと考えております。

しかし、入院をしている子供の学びを支援する院内学級を設置している病院は県内でも限られておりますので、残念ながら下関市内には設置された病院はございません。

そこで、下関の各学校では、タブレット端末を活用した授業に取り組んでいるところでございます。タブレット端末を使って、長期入院をしている子供さんや、いろいろな理由で学校の学びを受けることができていない子供さんに、教室の友達と一緒に学ぶことができないか、遊ぶことができないか、環境づくりに取り組んでいるところでございます。ちなみに、この活用率というのは、県や国よりも上回っている状況でございます。

このタブレット端末でオンライン配信をすることで、授業においてはグループ学習などで行います、友達と話し合ったり意見を交換したり、先生に質問をしたりすることができますし、また、休み時間にはビデオ通話やチャット機能を活用して、友達と会話するなど、楽しい時間を共有することができると考えております。入院している場所や学校以外の場所でも、わくわくするどきどきする、そういう場所がつくれないか考えているところでございます。この取組については、もう既に数校で実施を始めているところでございます。

今回、松宮議員から御自身の経験を踏まえた貴重な御意見を頂きました。さらには、議員の自らの困難な状況に向き合いながら前向きに生活している、下関教育理念である、生き抜く力を育んでいる高校生がいるということに、うれしさ、頼もしさを感じております。

教育委員会として、頂いた提案をしっかり受け止め、今市内の学校が取り組んでいる、わくわくする授業づくりを通し、子供さんたちの目線を大事に、誰もが安心して学びに向かい、学びが大好きになるように、環境に努めてまいりたいと考えます。すばらしい下関教育への御提案を頂きまして、ありがとうございました。

○副議長（安岡克昌君）

松宮悠翔さん。

○松宮悠翔さん

御回答ありがとうございました。今回、このように議会で答弁する機会を頂き、ありがとうございました。答弁するに当たり、市のホームページなどで情報を調べたり、学校で学習をしたりする中で新たな発見もあり、私自身本日は緊張しながら過ごしてきましたが、とても貴重な体験をすることができました。

救急医療体制、教育の保障について、私が事故に遭ったときから年月がたっており、体制も整備されつつあることを知り、うれしく思います。今回は丁寧に答えていただき、ありがとうございました。（拍手）

○副議長（安岡克昌君）

７番、長府高等学校、中村美香さん、村上真斗さん。

〔長府高等学校登壇、自己紹介〕

○中村美香さん

現在、下関市においては、人口減少が問題となっています。人口が４年間で約１万人減少し、現在は２４万３，８００人となりました。これらの原因として、市内で楽しめる場所が少ないこと、市外や県外に、より魅力を感じて移住してしまうことが考えられます。これからは、下関市の魅力を伝え続けるだけでなく、新たな魅力を増やしていくことが必要になってくるのではないでしょうか。

そこで、私たちは、下関市を今以上に盛り上げる企画について、二つ提案したいと思います。一つ目は、海峡ゆめ広場にクリスマスマーケットを開催し、イルミネーションでまちを彩ることです。

〔説明資料を議場内ディスプレーに表示〕

○中村美香さん

期間は１２月１２日から１２月２５日までの２週間を想定しています。夏には関門海峡花火大会という有名なお祭りがあるのに対して、冬には有名なイベ

ントがありません。そこで、冬にも大きなイベントを開催し、夏だけに限らず１年中、さらに魅力や活気のあふれたまちにできるのではないかと考えました。
　具体的な内容として、キャンドルナイト、ランタン、シャボン玉、映えスポット、出店、点灯式などを実施するのはどうでしょうか。さらに、著名人を呼ぶことによって、市外の方たちだけに限らず、県外の方たちにも興味を持ってもらえると考えました。

○村上真斗さん
　二つ目は、夏季限定でひこっとランドマリンビーチに海上アスレチックを設置することです。モニターを御覧ください。
　　〔説明資料を議場内ディスプレーに表示〕

○村上真斗さん
　こちらの画像のように、大型のエアー遊具を何種類も設置することで、楽しく体を動かすことができます。しかし、会場で遊ぶ際には危険が伴います。エアー遊具の周りにはブイを設置したり、利用者には必ずライフジャケットを着用させたりすることで、安全面への配慮をします。また近年、夏には３０度を超える気温の高い日が多くなってきており、熱中症対策も欠かせません。そうすることで、お子様連れや年配の方も利用しやすいため、幅広い年代の方に楽しんでもらえると思います。
　そして、海上アスレチックの設置に合わせて、食べ物や飲物を販売したいと思います。例えば、下関市の飲食店やカフェにお願いし出店していただき、かき氷やポテト、また、下関市の特産品である瓦そばやフグの空揚げを販売します。
　これらの二つの企画を行う際には、テレビやラジオ、新聞をはじめ、ＳＮＳで情報を発信することで、多くの方に下関市に足を運んでいただきたいと考えています。
　以上の提案から、下関市民だけでなく市外や県外の方にも、下関市の魅力を広めていきたいです。そして、それは下関市の人口減少を少しでも防ぐことにつながっていくのではないでしょうか。
　以上で終わります。御清聴ありがとうございました。
　　〔長府高等学校降壇、質問席へ移動〕

○副市長（北島洋平君）
　中村議員、村上議員、非常に鋭い御指摘と御質問ありがとうございました。冒頭おっしゃっておられましたけれども、冬のイベントが夏に比べて少ないんじゃないかということですね。これ、まさにおっしゃるとおりでして、特に観

光の面では非常に大きな課題の一つです。

というのも、まさにお話を頂きましたけど、花火大会のときには物すごい人が来る、ホテルも旅館も全部取れなくなるということがありますけれども、逆に言うと、それだけ来てくれるお客さんを逃しているという状況でもあるわけなのですけど、一方で花火のときに合わせて、ホテルのお部屋をつくったらどうなるかと言ったら、それはもう冬になったら空きまくるということになる。

つまり雇用とか施設とかというのは、ずっと年間通して維持しなければいけないので、こういう波があるというのは、経営上は非常に難しくて、なるべく――平準化と言いますけども、同じように皆さんに来ていただける状態をつくるということは、すごく観光においては重要なことなのですね。

実際、我々今、特に唐戸・あるかぽーとの開発をやっておりますけれども、その会議の中に出席いただいている、観光のプロのメンバーから、冬の集客をどうするかということを、市はもっと真剣に考えろと御提案といいますか、御意見も頂いているような状況なので、その意味で本当に皆さん、プロの目線に近い、すばらしい御指摘だったなと思います。

その上で、二つイベントを御提案いただいておりますけれども、どちらも非常に冬の閑散期を埋める、あるいは夏の、海に囲まれた水に囲まれたこの本市の魅力を生かすという意味ではすばらしい御提案だったかなと思います。

御存じかどうか分からないですけども、実際、皆さんに今日御提案いただいたみたいな、例えばスカイランタンは、この秋に１回やろうとして、残念ながら雨で中止になったのですけども、そういう動きもありますし、またシャボン玉。あれもナイトシャボンという形で――これは民間の皆さんがやっておられることですけども、今年も例えば安岡とか、彦島の老の山とか、そういうところでやってらっしゃるような方もいらっしゃったりします。

水上のほうのアスレチックも、アスレチックという形になるか分かりませんけれども、例えばあるかぽーとのほうでは、船溜りと言って船が泊まるところ、ちょっとした湾になっているようなところがあるのですけども、そこで水上のアクティビティーが何かできないかなということを今後考えていきましょうという話がされていたりもしますので、なのでまさに皆さんから今頂いたような提案も踏まえて、これからどういうふうなイベント、あるいはもうちょっと恒常的なアクティビティー、施設というものをつくっていけるかどうかというのは、考えていくすごくいいきっかけになったと思います。

詳細につきましては、担当部長のほうから答弁さしあげます。

○観光スポーツ文化部長（田中一博君）

長府高等学校の皆さんには、市内で楽しめる場所が少ない、新しい魅力を増やしていくことが必要だということで、まず、オーヴィジョン海峡ゆめ広場で、

クリスマスマーケットを開催して、イルミネーションでまちを彩るという御提案を頂きました。イベントが少ない冬に、いろいろな例も御紹介いただきました、ありがとうございます。

イルミネーションでまちに彩りをつくって人に集まってもらおうという方法、これは今下関でも実施されているものがございまして、例えば、竹崎公園――これは豊前田のお酒を飲む店が多い通りの入り口でございますけれども、にぎわってほしいという願いも込められてイルミネーションが点灯されております。

またあるかぽーと、今副市長もお話をされたのですけども、変わろうとしている、いろいろな検討がされています。一つ、海響館をライトアップして彩りをつくって、夜も人通りがあって、にぎわいのある空間をつくろうという、また観光客の滞在時間を長くしてもらおうという狙いで、明かりで彩られたところに人が集まっていただけるというのは、本当にイメージができるところでございます。

オーヴィジョン海峡ゆめ広場、これは夏の馬関まつりでも多くの市民が集まる会場でございますし、夏に負けないように冬の具体的な御提案を頂きました、ありがとうございます。もう一つ夏限定でひこっとランドマリンビーチに、海上アスレチックを設置するという御提案、海があるというのが下関の大変強みの一つだと思います。

先ほども出てまいりましたが、体験型の観光スポットが人気を集めると考えていますし、これまた先ほど安全面の考慮も忘れずに入れていただいていました。安全安心を含めてアピールができたら、多くの方に来ていただけると思いますし、観光客だけでなくて、この人口が減っていくというその状況をストップさせることができるのではないかなと期待ができます。御提案をお聞きすると、本当に魅力ある下関をつくっていかないといけないと思います。ぜひ、これからも下関の観光に関心を持っていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

○副議長（安岡克昌君）

中村美香さん。

○中村美香さん

本日は、このような機会を頂き、ありがとうございました。緊張しましたが、とてもいい経験になったと思います。そして、「スタートはわたしたちの声」という題のように、私たちの意見が今後の下関をよりよくするきっかけになれば光栄です。これで、山口県立長府高等学校の提案を終わります。（拍手）

○副議長（安岡克昌君）

８番、立修館高等専修学校、本田彩來さん、委細蓮士さん。
〔立修館高等専修学校登壇、自己紹介〕

○本田彩來さん
今から、立修館高等専修学校の提案をさせていただきます。私たちは、下関市を盛り上げるためには、下関市の魅力をたくさんの人に発信していき、知ってもらうことだと思います。下関市には、海響館や赤間神宮、ゆめタワーなど、多種多様で魅力的な観光スポットがたくさんあります。
しかし、２０２０年に新型コロナウイルスが蔓延し始め、観光客数がだんだんと減少していきました。新型コロナウイルスによる外出規制等により、年ごとの観光客数もコロナ前の半数まで落ち込み、ここ２年間で回復はしてきているものの、まだ全盛期とまではいきません。
下関市の魅力を市外、国外の人々にどうすればもっと知ってもらえるのかと考えた結果、ｅスポーツを通じて伝えられたらと考えました。ｅスポーツを使って下関市の魅力を伝えようとしたのには理由があります。コロナウイルスが蔓延し始めた頃、緊急事態宣言が発表され、学校や会社が２か月ほど休みになりました。自宅待機などでなかなか外に遊びに行けずに、多くの人々が自宅にいる時間が増えたため、ｅスポーツの需要が急激に増加しました。
これにより、２０２４年になった今でも、ｅスポーツの影響は強くインパクト性があると思い、ｅスポーツを使って伝えようと思いました。ｅスポーツを生かしてどのように下関市の魅力を伝えようかと考えた結果、ｅスポーツの一つであるマインクラフトで下関市の観光名所を再現することを考えました。本題に入る前に、まずはマインクラフトの説明をさせていただきます。モニターを御覧ください。
〔説明資料を議場内ディスプレーに表示〕

○本田彩來さん
マインクラフトとは、ブロックを使って自由に建築や冒険ができるｅスポーツです。想像力、計画力、問題解決能力、数学的思考を養うことができるので、教育的な効果があります。このように、自由な世界で建物や構造物を作成し、インターネット上に公開することができます。

○委細蓮士さん

このマインクラフトを使って、下関市の観光名所を再現した仮想空間をインターネットに公開します。そして、観光名所の説明や歴史などを知り興味を持ってもらい、実際に下関市に足を運んでもらうきっかけにしたいと考えており、これにより、観光による経済効果の向上につなげることができると思いました。

実際に来てもらえるような取組として、仮想空間の中の観光スポット各地にスタンプラリーやチェックポイントを設置し、見つけると店の割引クーポンなどの報酬をもらえるような仕組みのアプリをつくると、下関市に足を運んでもらえると考えています。

現在運用されている「しもまちアプリ」にもスタンプラリーがあります。しかし、しもまちアプリを利用している人は、下関市民を対象としているため、日本中と海外の人々には下関市の魅力が伝わりにくいです。ですが、マインクラフトは影響力が高いため、こういった観光客向けのアプリを使う取組は、下関市の魅力を知ってもらうには、十分過ぎる効果を発揮できると思います。いかがでしょうか。御清聴ありがとうございました。

〔立修館高等専修学校降壇、質問席へ移動〕

○副市長（北島洋平君）

本田議員、委細議員、わざわざマインクラフトで赤間神宮までつくっていただきまして、すばらしい御質問を頂きました。誠にありがとうございます。

まず、ｅスポーツ、特にマインクラフトですけれども、これはまさに本市も後ればせながら注目しているところでございまして、この後答弁があると思いますけれども、ちょうどおととい、実はマインクラフトカップというところで、この下関の特別賞をつくらせていただいて、その授賞式をやりまして、小学校５年生、皆さん４人がチームになって、未来のあるかぽーとをマインクラフトでつくるというのをやってくださいまして、そんなことをやっていただいたりも実はしているのですけれども、またそれとは別の観点で、観光で皆さんに知っていただく、足を運んでいただくために、このマインクラフトが使えるのではないかという御提案で、大変すばらしいなと思いました。

僕らも、どういうふうに知っていただくのがいいのかなという中で、例えば――マインクラフトではないのですけど、例えばＶＲ空間でつくるとか、そん

なこともやったらどうかという議論が中ではあったこともあったりもしたのですけども、そのときに議論になって、特にやはり難しいよねとか、考えなければいけないよねというところが、大きく論点として二つありまして、一つはまずそもそもつくったものを知ってもらう、みんなに見てもらうにはどうしたらいいかというところと、もう１個は見てもらった人が実際に下関に来るという行動にどうやってつなげるかというところですね。

この二つは非常に工夫が要るところだよねという話をしていたのですが、その意味では、今回頂いた御提案は、そもそもマインクラフトというすごく皆さんに知られていて利用者も多いプラットフォームを使うというところと、あとは先ほど御紹介いただきましたとおり、現実とリンクをさせて集客につなげるという御提案も入っておりましたので、僕らがまさに議論していたようなことも、さらに超えたレベルのすばらしい御提案を頂いたと思っております。

いずれにせよ、観光についてはどうやって皆さんに知ってもらって来てもらうかというのは、もうこれは永遠の多分課題なので、ぜひ皆さんみたいな新しい知見、御提案を頂きながら引き続き考えてまいりたいと思います。詳細につきましては、また部長より答弁させていただきます。

〇総合政策部長（岸本芳郎君）

立修館高等専修学校の皆さんから、「ｅスポーツで下関を盛り上げたいっ！」タイトルにびっくりマークが付いていて、これちょっと迫力があって個人的には私大好きでございますが、まずこのマインクラフトにつきましては、この人気と作品の多様さから、実は前田市長もこれ大好きなんですね。とても興味を持たれているようです。

マインクラフトですが、下関市では、デジタル人材育成の一環としまして、今年度、日本全国をはじめ、海外からもマインクラフトの作品が集まるマインクラフトカップにおきまして、プログラミングやデジタルでのものづくりにチャレンジする下関の子供たちを応援するために、行政パートナーとして下関市は参画して、教育版のマインクラフトの体験イベントですとか、あと大会とは別に、先ほど北島副市長からお話ありましたけども、特別賞としてスマートシティしものせき賞を設けるなど、子供たちのサポートに取り組んで、大会を通じて大盛況でございました。

マインクラフトは、このような人材育成をはじめとしまして、御提案のありましたような観光ＰＲや、下関の魅力発信などにおいても十分な効果を発揮するものと考えております。このマインクラフトを用いました下関市の観光名所の再現というアイデアは、若い世代を対象とした観光振興策として非常に面白いと感じています。特に観光名所の再現によって、市外の人たちに実際の観光名所に興味を持ってもらって、実際に訪れる機会を増やしてもらうというアプ

ローチは、非常にこれは効果的ではないかなと思っています。
　ただ、このような施策を進めるに当たりましては、いろいろな課題も想定されますので、関係者との協議も経ながら具現化に向けた検討をしたいなと思っております。なお、ｅスポーツに関しましては、全国的にも大規模な会場での華やかな演出、これが各地で開催されております。
　下関におきましては、御存じのように、総合体育館Ｊ：ＣＯＭアリーナ下関が今年の８月に供用を開始しておりますけども、その最大収容人数は約４，５００人でありまして、しかも大型のビジョンなどが備わっていることから、大規模な大会の開催も可能ですので、御提案のありましたｅスポーツの大会の実施など、幅広い用途で本市を盛り上げていきたいと考えております。

○副議長（安岡克昌君）
　委細蓮士さん。

○委細蓮士さん
　本日は、このようなすばらしい場を設けていただき、誠にありがとうございました。このような大勢の人たちの前でしゃべる機会はなかなかないので、いい経験になりました。これからも下関市の魅力を伝えていけるよう、力を尽くしていきたいです。
　以上で、立修館高等専修学校の提案を終わります。（拍手）

○副議長（安岡克昌君）
　この際、暫時休憩といたします。再開は、１５時といたします。

―１４時４８分　休憩―
―１５時００分　再開―

○議長（香川昌則君）
　休憩前に引き続き、会議を開きます。「高校生議員による提案・意見」についてを継続いたします。９番、下関総合支援学校、石橋陽向さん、松本悠伽さん。
　　〔下関総合支援学校登壇、自己紹介〕

○石橋陽向さん
　私たちは、下関市が、きれいで、笑顔があふれる、楽しいまちにしたいです。そして、観光客がまた来たいと思えるまちにするために、二つのことを提案し

ます。一つ目は、下関市のポイ捨て問題についての提案です。散歩をしたり買物に行ったりすると、ごみが道に落ちていたり、海に流れたりしている光景を見たことはありませんか。これを見てください。

〔ごみの状況写真を掲示〕

○石橋陽向さん

海にごみが浮いています。たくさんのごみが落ちています。とても汚いですよね。嫌な気持ちになってしまいます。きれいなまち下関市にするために、ポイ捨て禁止やごみ拾い運動などのイベントを増やしてほしいです。

私は馬関まつりのときに、ごみ拾いのイベントに参加しました。ごみをたくさん拾って参加賞まで頂きました。祭りの楽しい雰囲気と、きれいになった道を見て、とてもすがすがしい気持ちになり、きれいな環境をずっと守っていきたいと思いました。

現在下関市でも、「しものせき美化美化大作戦」を実施していますが、このようなイベントをたくさん行い、子供からお年寄りの方まで、幅広く気軽に参加できるものをもっと積極的に呼びかけ、一人でも多くの人が参加すれば、簡単にポイ捨てをする人も少なくなります。下関に住むみんなで、ごみのないまちづくりを行うことで、地域全体の環境がよくなり、たくさんの人がここに住みたい、また来たいとなると思います。

○松本悠伽さん

二つ目は、若者の遊ぶところが少ないので増やしてほしいという提案です。下関市には唐戸市場や角島など、大人向けの観光スポットは多くありますが、若者向けというのが少ないように感じます。東大和町のラウンドワンがなくなって遊ぶ場所が減ってしまいました。誰でも楽しめるような屋内・屋外運動施設や遊園地があれば、より多くの人を呼ぶことができると思います。

屋内でたくさんのスポーツができるところや、トランポリンパーク、スケボーパークも魅力的ですし、私はユニバーサルスタジオジャパンのような大きな遊園地があったらとてもうれしいです。若者の笑顔が街中にあふれることで、下関市全体の活気が生まれ、市民全体の交流がもっと活性化すると思います。観光客もまた来たいと思えたら将来子供を連れて来てくれるかもしれません。

この二つの提案から、笑顔があふれるきれいなまち、楽しいまちになれば、一度来た観光客もまた来たいと思ってもらえると考えます。そして、その人が友達や家族を誘って新たに下関を好きになる。そうすることで、下関がより盛り上がっていくのではないでしょうか。

〔下関総合支援学校降壇、質問席へ移動〕

○副市長（島崎敏幸君）

下関総合支援学校、松本議員、それから石橋議員、御質問ありがとうございました。観光客がまた来たいと思えるまちにするためにということで、ごみがないまち、きれいなまち、本当にすばらしい切り口だと思います。

今、お話にありました、しものせき美化美化大作戦、これ大変いい制度でありまして、いつでもどこでも誰でもできるというものでありますので、今おっしゃられたように、こういったイベントをたくさんやっていくということは、我々もＰＲしていかないといけないのですけど、私の知っている市内の団体さんは、美化美化大作戦をゲームと組み合わせて、先にごみを５０キロ集めたら勝ちみたいな、そんなことで結構盛り上がってごみ拾いをやっているところもあるようです。そんな感じで、ぜひ、市の制度を活用していきたいと思います。総合支援学校さん、今質問を頂きましたけど今日この場にいる皆さんも、ぜひ、ごみのない下関にしていただければと思います。

本当に下関に行ったら、ごみは一つも落ちてないよねというような、そんなきれいなまちであったら、いつかそういったきれいなところであればということで、ユニバーサルスタジオジャパンみたいな、大きなテーマパークが目をつけてくれるかもしれませんので、ぜひ皆さんと一緒にきれいなまち下関に取り組んでいきたいと思います。詳細は、担当部長から御説明をいたします。

○環境部長（吉田　誠君）

下関総合支援学校の皆さんから２件の御提案を頂きました。まず私のほうからは、１点目のごみ拾いイベントについて、御説明をしたいと思います。

下関市では、地域の清掃活動を支援する「しものせき美化美化大作戦」で環境美化に努めています。ペットボトルや空き缶をポイ捨てしたらごみですが、分別してリサイクルすれば資源として役立てることができます。実は今私が着ているこのジャケットも、ペットボトルのリサイクルでできている服なのです。

このように、小さな協力の積み上げで、ごみがまた利用できる資源となります。市役所のホームページでもきちんと分別することの大切さをお知らせしていますが、ごみになるのか、資源になるのかは、一人一人の行動次第です。皆さんからもそのような視点を、ぜひ周りの方に伝えていただくと大変ありがたいと思っています。

それから、簡単にポイ捨てする人が減るということも、大事な視点です。ごみを拾う人は、ごみをポイ捨てしたりはしません。御提案いただいたごみ拾いイベントについては、市内各地の自治会などに、しものせき美化美化大作戦に取り組んでいただくように呼びかけ、子供からお年寄りまで気軽に参加できるようにしたいと考えています。

下関総合支援学校をはじめ、他の学校の皆さんも、学校単位で参加していただくこともできますし、自治会が開催するイベントに個人や御家族、そしてお友達同士で参加していただくこともできます。きれいになったまちを眺めると、すがすがしい気持ちになりますし、また、自分たちで拾い集めたごみを眺めると、満足感や達成感が得られることも間違いありません。ぜひ、みんなで一緒に下関市をきれいなまちにしていきましょう。今回は貴重な御提案をありがとうございました。

○観光スポーツ文化部長（田中一博君）

観光客がまた来たいと思えるまちにするために、若者が楽しめるところを増やしてほしいという御提案を頂きました。御提案のように、若者が楽しめる場所がきちんとありますと、学校を卒業した後でもずっと下関にいようとか、将来子供連れで生活を楽しむということが想像しやすいなと思います。若い人の笑顔がまちにあふれている光景を想像しましたら、本当にそこは活気があって、その活気がまた人を呼んで観光客も増えていくのだろうと思います。

先ほど副市長もおっしゃいましたけども、ユニバーサルスタジオジャパンのような大きな遊園地にも目をつけてもらえるように、そういった雰囲気をつくっていかなければいけないと思います。

スポーツができるところの御要望、これについても、本当に御要望が多いと認識をしています。場所の制約等がございますので、できるところから対応しなければいけないなと考えています。いずれにしても、これからも若い人たちが楽しめるものを考えるという視点が必要だと、大切だと考えています。御提案のとおり、きれいなまち、楽しいまちと下関が言われるような努力をこれからもやっていきたいと考えています。どうもありがとうございました。

○議長（香川昌則君）

松本悠伽さん。

○松本悠伽さん

本日は、このような機会を頂き、ありがとうございました。大変緊張しましたが、議会の場で発言でき、貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

下関総合支援学校、以上で提案を終わります。（拍手）

○議長（香川昌則君）
１０番、下関中等教育学校、岩本璃美さん、飛垣七海さん。
〔下関中等教育学校登壇、自己紹介〕

○飛垣七海さん

本日は、このような機会を頂き、ありがとうございます。さて、今回私たちから下関市へ提案したいテーマは、下関市のグローバル人材の育成についてです。

本校では、国際教育が盛んです。高校１年生時に実施される海外語学研修がその一つで、昨年、私たちも２週間カナダへホームステイに行きました。また、中国語や韓国語の授業が行われたり、オンラインで韓国やインドネシアの学校と交流したりするなど、他国の言語や文化について学ぶことができる機会が多くあります。

そんな私たちは、他国との交流の機会が自分たちの語学力向上や価値観の育成の一助となり、グローバル人材としての力を身につけられていると感じています。

○岩本璃美さん

これを踏まえ、下関市に対して二つ、私たちから提案をしたいと思います。一つ目は、他国との交流の場を増やしていただきたいということです。例えば、下関市が姉妹友好都市の提携を結んでいる釜山市や青島市などの都市の高校生と、下関市の高校生との交流の場を設けることで、お互いの言語や文化に触れ合う機会をつくることを考えました。

交換派遣プログラムを企画したり、オンラインを用いたりするなど、様々な方法で交流する場をつくり、より多くの人が参加できるようになればよいと思います。

二つ目は、語学教育の促進をしていただきたいということです。学校での英語教育の充実や、英語以外の多言語を学ぶことができるワークショップの開催などの取組をすることで、グローバル人材に欠かせない語学力の強化が期待で

きると考えます。
　以上の２点を下関市に提案したいと思います。御清聴いただきありがとうございました。
　　〔下関中等教育学校降壇、質問席へ移動〕

○副市長（島崎敏幸君）
　下関中等教育学校さんから今御質問を頂きました。下関市のグローバル人材の育成についてということで、御案内のとおり、下関は中国の青島市、それから、韓国の釜山広域市と姉妹友好都市締結をしています。それ以外にも、ブラジルのサントス市、それからアメリカのピッツバーグ市、そしてトルコ共和国イスタンブール市で、そのほかにも、鯨協定ということで韓国の蔚山広域市とも協定を結んで提携をしていくということで、なかなかほかの都市にもない、国際色豊かな活動をしているのではないかなと思っております。
　小中学校の派遣とか、様々なこともやっていますし、それ以外でも、今総合政策部の国際課というところが、国際交流をガンガンやっていますので、ホームページなども御覧いただいて、可能な制度をぜひ活用していただきたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。詳細は、総合政策部長、そして、教育委員会から説明いたします。

○総合政策部長（岸本芳郎君）
　下関市では、海外との友好や理解を深め、次世代の郷土を担う青少年の国際感覚の育成を図ることを目的に、小中学生海外派遣研修、これを実施しておりまして、これまでに７００名近くの児童生徒の方に参加をいただきまして、実際に韓国、中国、アメリカに渡っていただいて、海外を肌で感じる交流を通じて国際感覚を身につけていただきました。
　高校生の海外派遣研修につきましては、山口県が総合交流や人材育成を目的に、海外への高校生派遣ですとか留学支援を行っているところでございますが、本市におきましては、海外から本市に来られる学生が、本市の高校生との交流機会を希望される際に、市が窓口となって案内をさせていただいております。
　このたび御提案いただきました、他国との交流の機会を拡大することにつきましては、多様な価値観に触れることができ、学力の向上も図れ、グローバル人材の育成に大変役立つものと考えております。先ほど御紹介いただきましたが、本市が姉妹友好都市の提携を結んでおります、韓国の釜山広域市や中国の青島市には、本市の職員を派遣しております。
　ですので、これら姉妹友好都市を中心に現地の高校への交流の働きかけ、こういったことを行うことで、これまで以上に現地への生徒派遣やオンラインによる他国の学生との相互交流が図れるよう、積極的に取り組んでまいりたいと

考えております。

○教育長（磯部芳規君）
　語学教育の推進、また英語教育の充実についてということでお答えいたします。下関教育では、今わくわくする授業づくりをテーマにしているところでございます。
　その観点から、英語教育についてですが、外国の方や語学力の高い方との会話を通した場面が、英語などの語学教育の向上にはとても効果的であると考えております。そこで、本市では、幼稚園から高等学校までＡＬＴを配置し、英語に触れ、学ぶことができるように努めています。先日給食を食べに行きました小学生に、魚料理でしたのでフィッシュと言ったら、発音が悪いと言われました。本当に小学生も英語がとても上手になっているようでございます。
　ＡＬＴから自国の文化や音楽などを習ったり、一緒に遊んだりすることで、外国語への抵抗感が軽減されるとともに、外国への興味関心が喚起され、国際感覚も養われるのではないかなと期待しているところでございます。今後も、ＡＬＴと児童生徒が日常的に触れ合うことができる機会を増やしていきたいと考えております。あわせて、タブレット端末を活用し、手本となるネーティブな発音を、自分のペースに合わせて聞いたり録音したりすることができるよう、積極的な活用を進めてまいりたいと考えます。
　下関は、議員さんの御指摘どおり、また先ほど副市長さんからもお話がありましたとおり、釜山広域市、サントス市、青島市、ピッツバーグ市、イスタンブール市の５か国の都市と友好都市として交流を深めている国際都市でございます。教育委員会としては、英語に限らず、他言語や異文化に触れる機会を皆さんの御意見を生かして増やすことで、国際都市下関ならではのグローバル人材の育成に努めてまいりますので、どうぞ下関中等教育学校の皆さんの力がこの下関市で発揮されるとともに、皆さんの力をお貸しくださいますようお願いいたします。すばらしい御提案をありがとうございました。

○議長（香川昌則君）
　飛垣七海さん。

○飛垣七海さん
　御答弁大変ありがとうございました。今回の高校生議会を通して、下関市の取組について多角的、多面的に見詰めることができ、今後、よりよい下関をつくっていくためには、一人一人が意見を持ち、発信し、そして行動することが大切であると感じました。
　今回は改めて、このような貴重な経験をさせていただき、大変ありがとうご

ざいました。
　これで、下関中等教育学校の提案とさせていただきます。（拍手）

○議長（香川昌則君）
　１１番、下関工科高等学校、市村響さん、枌侑叶さん。
　　〔下関工科高等学校登壇、自己紹介〕

○市村　響さん

　工科高校は県内最大の工業高校であり、毎年８０％の生徒が就職をします。３学年にアンケートを取った結果、約４０％の生徒が、市内の企業に就職をする一方で、残りの６０％の生徒が、市外に流出しているということが分かりました。
　市内の企業に就職をする生徒に、なぜ市内の企業に就職をするのかという質問をしたところ、約６０％の生徒が地元に残りたいからと回答しており、市内の企業に就職をする多くの生徒が、下関に愛着があることが分かりました。
　その一方で、市外の企業に就職をする生徒に、なぜ下関市内の企業を選ばなかったのかと質問したところ、約４０％の生徒が、市内の企業には自分のやりたい仕事がない、大企業がないと回答しています。
　下関市内には、全国的にも有名な大企業もあり、長い歴史があり、魅力的な仕事をしている企業も多数あると思いますが、このアンケートの結果から考えると、なかなか我々工業高校の生徒にその魅力、情報が伝わってきていないのかなと思います。
　毎年夏に下関市が学生向けの就職フェアを開催されていると聞きましたが、一般向けの幅広い職種のものです。本校生徒の主な就職先は製造業が多いので、下関市が主体になって、製造業を中心に市内の企業の魅力についてアピールする場を設けていただけたなら、市内の企業を就職先に選ぶ生徒も増え、その結果、下関市内の生産人口の増加にもつながる可能性があります。
　また、市外に就職を希望する生徒は、将来下関に戻ってきたい気持ちはありますかという質問に対して、２０％の生徒が全く帰るつもりはないと回答し、１０％の生徒が絶対帰ってくると回答しています。そして、残りの７０％の生

徒が帰ってくるかもしれないと回答しています。さらに、下関市外に就職をする３０％の生徒が、一度は市外、県外に出てみたいという理由で、市外の企業に就職をしています。

これらの回答から、一度市外に就職をした本校の生徒も、将来的には市内にＵターンしてくる可能性があるということが考えられます。

○枌　侑叶さん

しかし、Ｕターンを考えている人が下関に戻ってくるに当たり、大きな問題が二つあると思います。一つ目は、安定した再就職先があるかということです。二つ目は、下関市が住みやすいまちかという点です。

今回のアンケートで、どうすれば下関市がもっと住みやすくなると思いますか、という質問をしたところ、半数以上の生徒が交通の便をもっとよくしてほしいという回答をしています。下関市独自の生活バスがあるのは知っていますが、旧郡部などの限られた場所でしか運行していないのが現状です。以上のことを踏まえて、下関市をより魅力的な場所にするために、二つ提案をさせていただきます。

一つ目は、下関市主体で、市内にある企業の魅力をもっと積極的に発信してみてはいかがでしょうか。高校生及びＵターンを考える人たちに選んでもらえるよう、様々な形で県内、県外にＰＲしていただければと思います。

二つ目は、下関市内の交通手段が増えるよう、これまで以上に企業への呼びかけ、生活バスの路線を増やしてみてはいかがでしょうか。ほかの市にはない革新的な取組をしていただけることを期待しています。御清聴ありがとうございました。

〔下関工科高等学校降壇、質問席へ移動〕

○副市長（島崎敏幸君）

下関工科高等学校、枌議員、それから市村議員、御質問ありがとうございました。高校のほうでアンケートを取っていただいたということで、アンケート結果、これはもうまさしく私どもまちづくりをしている市の職員にとっては、通信簿というか、そのままの評価が頂けたかなと思っています。

地元に帰りたい、あるいは将来帰ってくると言っていただいた方もいらっしゃる反面、全く帰るつもりはないというような、少々ショックを受けてしまいました。しかし、そうは言いながら帰ってくるかもしれないという回答をしてくれた方も、かなりいらっしゃるということで、それはもう、きっと可能性がある、そこにかけたいなと思います。

現在下関市は、総合計画というものを今つくって、先日議決も頂いたところなのですけども、その中に、基本理念は「可能性を築くまち」というところで

ございます。きっと、いろいろな可能性があると思うのですけど、きっと下関で生まれ育った皆さんが、下関を一度出るかもしれませんけど、帰って来ていただける、そういった可能性もきっとあるのだろうなと思っております。

もう一つ、就職先というところですけれども、実は下関市役所もたくさん職員を抱えておりまして、毎年たくさん募集をしてございます。工科高校の生徒さんに限らず、今日いらっしゃる方も、どうか就職先の一つの選択肢に下関市役所を入れていただいたらうれしいなと思います。一度出られても帰ってくる枠も用意しております。御検討よろしくお願いします。

いろいろなするどい指摘も頂いておりますので、そのあたりにつきましては、担当部長から説明をいたします。

○産業振興部長（津野貴史君）

下関工科高等学校の市村響議員、枌侑叶議員、御提案ありがとうございました。私のほうから産業振興部のほうからは、まず市内企業の情報発信という部分についてお答えさせていただきます。

御意見のとおり、下関には長い歴史や独自の技術を持った企業など、魅力あふれる企業が数多く存在し、地域経済を支えております。現在市では、「しものせきｊｏｂｎｅｔ」というアプリを製作し、市内企業の情報を掲載・発信しております。また、中学生や高校生に向けた「しものせき未来創造ｊｏｂフェア」という、職業体験イベントも開催しております。本日御臨席の高校生議員の方々も、一度は参加されたことがあるのではないかなと思います。

企業の魅力を伝えるためには、まずその企業に働いている方々の話を直接聞き、そしてその仕事ぶりを直接見て、そしてその仕事に直接触れてもらうということが重要だと考えております。多くの皆さんに製造業をはじめ、多種多様な市内企業の仕事体験や、仕事についての話を聞く機会をより多く創出し、御提案のように、市内企業の魅力発信に努めていきたいと考えております。

市内には世界展開をしている大手企業や、きらりと光る中小企業など、皆さんが下関に残って働きたい、それから下関に戻って働きたいと思える企業が必ずあります。自分に合った魅力ある企業を見つけ出し、高校生議員の皆さんもぜひ市内で就職していただければと思います。

また、先ほどＵターンについてのお話がございました。近年ではＵターンの際に、地元に帰って創業――自分でビジネスを始めるということですけども、そういったことをすることも選択肢の一つとなっております。市では、世界に羽ばたくスタートアップ企業を目指す方や、念願だった自分の店を開く方など、新規創業を支援する、そういった取組も進めております。

市外から市内に戻り、人生の新たなステージで、皆さんの夢を形にできるよう、下関がそんな場所になれるように取り組んでまいります。先ほどありまし

た、一度市外に出てみたいというのも、気持ちが私も分かりますけども、出られた方がまた戻ってくるような、そんなまちにしていきたいと思っております。

〇都市整備部長（山上直人君）

下関の住みやすさの観点から、交通手段を増やして交通の便をもっとよくしてほしい。そのために生活バスを増やしたらどうかという御質問について都市整備部からお答えいたします。

交通問題は、市民の皆さんの注目度が大変高くて、今年の市議会でもたくさんの御質問を頂いたところです。市村議員、それから枌議員の質問を伺って、若い高校生の皆さんにとっても交通はやはり生活に密着した重大な課題なのだと、身が引き締まる思いです。

さて、今公共交通は、下関に限らず全国各地で大変な状況が続いています。なぜかと言いますと、今年の４月に法律が変わりまして、運転手の働く環境を改善するために、労働時間が短く制限されるようになりまして、どの会社も運転手が足りていないためです。路線バスについて申し上げると、今年の３月と９月のダイヤ改正で、全体の１割以上に当たる１６４便が下関市内で減便されていて、下関駅出発の主要路線についても、最終バスが３０分ほど繰り上げられているというような状況です。

御提案の生活バスですけれども、主に交通が不便な豊田町、菊川町、豊北町において、市役所が事業主体になって運行しているものです。生活バスは一般的な路線バスと違いまして、運転手に特別な運転免許が必要なくて、その特別な運転免許を持っていなくても運行できる仕組みになっているので、全国的な運転手不足という、現在の社会情勢の影響を受けにくい手段の一つです。社会情勢を捉えた着眼点がとてもすばらしいと感じました。

生活バスを拡大する際に、我々が考えなければいけないこととしては、民間企業が路線バスを運行しているエリアで、同じように市役所がバスを運行してしまうと、民間の路線バスのお客さんを奪ってしまう可能性がありますので、それはよく考えなければいけないところです。それで路線バスを運行する企業との合意であったり、ルールづくりが必要なのだろうと考えております。

いろいろな課題はありますが、市役所としては、まずは路線バスを頑張って運行している民間企業が今運転手不足に苦しんでおりますので、その支援を強化しながら、路線バスに限らない様々な交通手段について検討を進めて、交通の便のよい、住みやすいまちづくりを進めたいと考えております。

また御質問の中で、他市にない革新的な取組をという御期待も頂きました。公共交通については、将来的には自動運転とか、そういう新しい技術とかサービスが導入できる可能性があります。

現在山口県の中では、周南市がモデルになって、自動運転の実証実験が行わ

れています。このような県や国とか、あとほかの自治体の取組もよく勉強しながら上手に取り込んで、下関の交通の在り方について、議会や市民の皆さんと引き続き議論してまいりたいと考えております。御質問を頂きましてありがとうございました。

○議長（香川昌則君）
　市村響さん。

○市村　響さん
　本日は、このような機会を頂き、ありがとうございました。本日答弁していただいた内容は、学校に持ち帰って、全校生徒と共有したいと思います。
　以上で、工科高等学校の提案を終わります。（拍手）

○議長（香川昌則君）
　１２番、下関西高等学校、古谷瑠威さん、吉谷拓真さん。
　　〔下関西高等学校登壇、自己紹介〕

○古谷瑠威さん
　私たちは、下関市の課題が何なのか調べました。その結果、課題の一つとして、人口減少があると分かりました。２０００年以降、下関市の人口は減少傾向にあり、２０２２年には人口が２５万人を下回っています。

　なぜここまで人口が減少するのかを調べると、若者が進学や就職のために大都市に移住する傾向が強いことや、出生率の低下も影響していることが分かりました。また、下関駅周辺の中心市街地では、人口が著しく減少しており、地価の高さや高台が多いことが影響していると分かりました。
　下関市は、豊かな自然や歴史的な遺産、海産物などの魅力を生かし、地域の特産品や観光資源を利用したイベントやフェスティバルの開催などで、フグなどをテーマにした食文化の発信をしています。また、地元の飲食店と連携したり、観光名所である巌流島や長府地区の歴史的建造物を利用した観光プランを練ったりして、観光客の方にも下関市のよさを体感してもらえるように努めて

います。
　これらの取組は、地域コミュニティーを活性化させていますが、短期的な効果で持続的な効果はもたらしてはいないのではないかと思いました。

○吉谷拓真さん
　そこで私たちは、注目を浴びるような大規模な大型施設をつくることを提案します。この施設のポイントは、どの年齢層の人も利用でき、下関はすてきだと体感してもらうところです。つくり方やつくる場所を考えたとき、下関市にたくさんある廃校を利用したらいいのではないかと考えました。その廃校の近くに住んでいる人たちの年齢層に合った施設をつくることで、地域を盛り上げることができます。
　高齢者層には、温泉施設や福祉施設、同世代で交流や趣味を楽しめる老人クラブを。大人にはフィットネスセンターや料理教室、ゴルフ、音楽クラブを。子供にはテーマパークや科学館、屋内遊び場などをつくるのがいいと思います。
　この施設をつくるに当たっての問題点の一つとして、莫大な資金が必要という点があります。その問題を解決するために、私たちはふるさと納税を活用することを考えました。ふるさと納税を使えば、資金を援助してもらえるだけでなく、返礼品として下関市の特産品を使うことで、さらに市の魅力をアピールすることができます。
　私たちは、廃校を利用した大型施設をつくることで、地域住民がこれからも下関に住み続けたいと思えるような、また、ほかの地域の人から移住したいと思われるようなまちづくりを提案します。
　　〔下関西高等学校降壇、質問席へ移動〕

○副市長（北島洋平君）
　古谷議員、吉谷議員、御提案どうもありがとうございました。これで、この議会最後の御質問ということになりますけども、図らずも廃校に始まり、廃校に終わる形となりましたが、また皆さんは皆さんで独自の視点からの御提案を頂きまして本当にありがとうございます。
　おっしゃっていただいたように、施設をつくるというのは非常に大きなお金がかかります。この後、詳細は答弁してもらうようにいたしますけれども、本市のふるさと納税は、全国で見てもかなりの水準でございまして、また近年物すごく額も伸びています。伸びていますけども、でも本当に大きな施設を何かつくろうと思ったら、まだそれで全然足りるような額ではない。
　特に施設は、つくるときももちろんそうなのですけれども、やはり維持・運営するのにもお金がかかります。人を雇わなければいけないし、当然電気も水道も光熱費がかかりますし、また少したてば古くなりますので、修繕も必要で

すし、またお客さんに喜んでもらおうと思ったら、時代に合わせて中身を変えていくということも必要になったりもしますので、そのお金をどうするかというのは、これはもう我々公でも民間の事業でもみんながそこを考えていく。

その中で、民間の事業であれば、どうやって幾らの値段にして、どういう中身でどれだけお客さんに来てもらえるかということを考えますし、僕らだったら例えば学校は、収益としてはもちろん何も収益を生みませんけれども、それを維持するために、ただそれはもう皆さんの教育のためには絶対必要不可欠な施設なので、市民の皆さんのお金を使ってでもやるというふうに考えていくわけでございます。

そういったことで、その財源についてお考えをいただいているというのは、非常にすばらしい御提案だと思いますけれども、一方で、そういった、もろもろお金の制約もある中で、民間でやるべきなのか、公でやるべきなのか、どっちかとしてもまたどういうものをつくるべきか、いくらかけるべきか、どういうものを目指していくべきかというのは、非常にいろいろな議論がある面白い論点でございますので、今廃校の利活用ということでいろいろ御提案を頂きましたけれども、そのようなことも踏まえて、それぞれの施設の、学校一校一校の特色だったり地域の特色だったり、あるいは市のほかの施設の分布状況だったり、いろいろなものを考えながら、もっともっと御提案を深めていただけるととてもいいのではないかなと思いました。

詳細につきましては、各担当部長から答弁をさせていただきます、ありがとうございます。

〇教育長（磯部芳規君）

日本の各市町が、現在人口減少や若者の県・市外流出という、そういう状況の中で、今回下関西校の皆さんから、永住するなら下関を知ってもらうというすばらしい御提案を頂きました。お答えいたします。

現在、市内には廃校施設が１６校ございます。いずれも老朽化等により、廃校の跡地利用は大きな課題であります。先ほどの御意見の中で、廃校の近くに住んでいる人たちの年齢に合った施設をつくることで地域を盛り上げる。また、問題点の一つである膨大な費用に関しても、市の特産品を活用するといった下関市の魅力をアピールしながら捻出していくという、高いＩＣＴ機能の能力を生かした若い皆さんからのすばらしい御意見であると伺いました。

そこでまず現在の廃校の活用状況の一例を御紹介いたしますと、令和３年に廃校になった旧豊田中小学校では、実行委員会を立ち上げ、「想い出さいか市」というイベントが実施され、地域コミュニティーの核であった学校が形を変えても、地元住民に喜んでもらえるものとなっております。

しかし、皆さんの御意見にありますように、地域コミュニティーを活性させ

ても、短期的な効果で持続性をもたらしていくのではないのではないかという御指摘を受けておりますので、地元住民の皆様には、さらにはまた市民の皆さんに喜んでいただけるような施設整備等に取り組んでいかなければいけないと考えています。

廃校がある地域には、下関だけでなく県内外に発信できる魅力がたくさんあると考えています。また下関がどんどん今、まさに成長している、努力している姿は逆に皆さんの目にも映っているのではないかと考えています。どうでしょうか。

そこで、下関は、幼稚園、こども園、保育園から、大学、大学院まで備わっている、充実した教育を受けることができる学校がある学びのまちでございます。どうぞ下関西校をはじめ、ここにいらっしゃる市内高等学校の皆さんに、今回の御提案など、私たちと一緒に夢を語り、夢に挑み、夢を実現する、魅力ある下関の可能性を開くための必要となる人材として、私たち下関教育の仲間となって、課題に向かっていただけることを心からお待ちしております。

今回の御提案には、前向きに具現性を持って取り組みたいと考えております。

○総合政策部長（岸本芳郎君）

大規模施設の整備に必要となる資金として、ふるさと納税を活用してはとの御意見を頂いております。御紹介のありましたふるさと納税制度は、自分の生まれ育ったふるさとに貢献したい、または、転勤や旅行で訪れた地域を応援したいという気持ちを形にする仕組みでございます。

寄附金の使い道は寄附者が選ぶことができまして、さらに寄附金のお礼としまして、地域の特産品――これはおいしい食べ物ですとか工芸品ですとか、そういったものが受け取れ、次の年に払う税金の控除も受けられるという、魅力的な制度でございます。本市におきましては、令和５年度におきまして、１，０００品を超える特産品を返礼品として御用意したところ、約１７億円の寄附を頂戴いたしました。

これは、山口県内で１位、中国地方全体でも２位となる額でございまして、頂いた寄附金につきましては、本市の各種施策の実施に当たりまして、貴重な財源として活用しているところでございます。

このたび御提案がございました施設の整備にふるさと納税を活用することにつきましては、先ほど副市長のほうからもお話がありましたけども、予算規模など、判断を要する点はございますが、基本的には問題はないのではないかと考えております。

○議長（香川昌則君）

吉谷拓真さん。

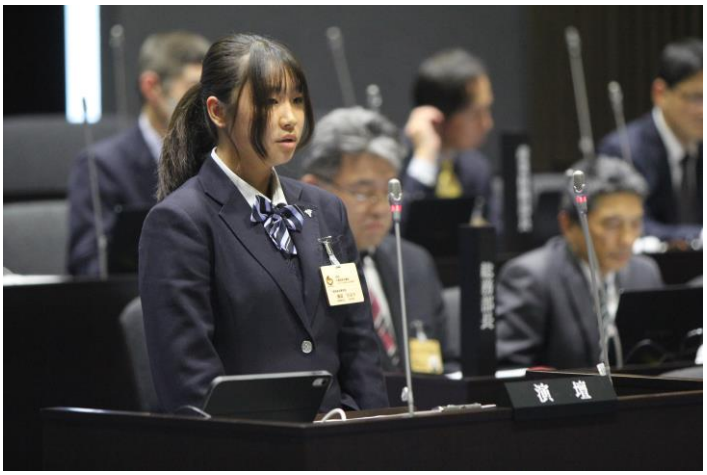
○吉谷拓真さん
　今回このような機会を頂き、本当にありがとうございます。頂いた御答弁を糧に、これから自分たちに何ができるかしっかり話し合っていきます。
　これで、下関西高等学校の提案を終わります。（拍手）

○議長（香川昌則君）
　以上をもって、高校生議員による提案・意見を終わります。

３．２０２４　下関高校生議会宣言に関する決議

○議長（香川昌則君）
　日程第３　「２０２４　下関高校生議会宣言に関する決議」を議題といたします。提案理由の説明を求めます。下関商業高等学校、濱田ひよりさん。
　　〔濱田ひよりさん登壇〕

○濱田ひよりさん
　本日は、高校生議会という貴重な機会を頂き、心より感謝申し上げます。議場で発表し、御答弁いただくなど、ふだんの学校生活では経験できない多くの学びを得ることができました。



　今の私たちの思いを「２０２４　下関高校生議会宣言」として届けたいと思います。
　それでは、提案の趣旨を説明いたします。この宣言に関する決議の提案の趣旨につきましては、宣言を読み上げることによって代えさせていただきます。
　２０２４　下関高校生議会宣言（案）。
　今やＳＮＳは、情報発信、情報収集、またコミュニケーションツールとして、私たちの生活になくてはならないものとなっています。
　下関市が掲げる「未来へ躍進する街」の実現には、効果的なデジタル技術の活用が不可欠です。
　私たちは歴史や伝統・文化を受け継ぎ、守るとともに、自身の体験も踏まえて、この素晴らしい下関市の魅力を、ＳＮＳを活用し、世界中に発信していきます。

私たちを取り巻く生活環境は、日々変化し、予測不可能な状況にあります。近年、全国的に多発している自然災害は、ここ下関市でも私たちの生活を脅かすものとなっています。

下関市が掲げる「安全・安心な街」の実現には、人とつながり、多様性を認め尊重し合いながら、自らが考え、実践していくことが必要です。たとえその行動が小さくてもＳＤＧｓに貢献できる活動を心がけることが大切です。

地域社会のつながりが希薄化していると言われている現代社会において、私たちは地域社会を牽引する担い手となるため、学校生活、社会生活で様々なことを学び続けるとともに、ボランティア活動や地域の活動、またイベント等への参加を通じて、つながりを大事にし、幅広い世代の人々との交流を深める中で、より良いまちづくりに貢献していきます。

今回の高校生議会の開催にあたり、下関市の未来について多くのキーワードを考えました。

私たちが描く未来の下関市は、

「世代、性別に関わらず安全・安心なまち」、

「環境が良いきれいなまち」、

「歴史、景観、自然を活かし、人々が「住んでみたい」「訪れたい」と思える魅力あるまち」、

これらは、「一人ひとりが笑顔で居心地良く暮らせる元気なまち」です。

私たちが描く未来の下関市の実現のために、私たち一人ひとりが行動していくことを、ここに宣言します。

以上、決議いたします。

令和６年１２月２０日、下関高校生議会。

提案説明者、下関商業高等学校濱田ひより。

○議長（香川昌則君）

質疑はありませんか。

〔なし〕

○議長（香川昌則君）

質疑なしと認めます。

これより、本決議案について、電子表決システムにより採決いたします。参加ボタンを押してください。

押し忘れなしと認めます。本決議案に賛成の諸君は賛成ボタンを、反対の諸君は反対ボタンを押してください。

押し忘れなしと認め、表決を終了いたします。賛成総員であります。よって、本決議案は原案のとおり可決されました。

以上で、本日の下関高校生議会に付議された事件は全て議了いたしました。

閉会に当たり一言御挨拶を申し上げます。高校生議員の皆さん、大変お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

本日の高校生議会は、昨年私が議長に就任した際、議会改革の一つとして、所信で申し上げたもので、関係各位の御尽力により、こうして開催できたことに、大変感謝申し上げる次第です。

本日は、皆さんから、ふるさと下関市に対する思いについて、高校生ならではの視点をお聞かせいただく大変貴重な機会となりました。皆さんが出された提案は、若い世代の感性にあふれたもので、問題意識や目のつけどころも、大変すばらしく感じたところでございます。

本日の提案では、本市が直面する課題について、高校生議員の皆さんの実体験や、各学校の特徴を生かした内容で、活発で建設的な議論が行われ、本市議会本会議さながらの会議となりました。

私たち議員も、高校生の皆さんをはじめ、若い視点も一層取り入れ、今後、議会での議論をさらに進めていきたいと考えております。

執行部の皆さんにおかれましては、本日高校生議員の皆さんから頂いた貴重な提案について、真剣に検討していただきたいと思います。

また、高校生議員の皆さんは、今回の経験を通じて、市議会や市政への興味、関心を持っていただいたものと思います。政治や社会の仕組みについて学び、自ら考え行動するといった主体性をさらに磨いて、地域社会に貢献できる人に成長していただくことを願っております。

休憩時間に、高校生議員の皆さんの立派な姿、そして、このたびの経験を通じた成長に、学校関係者の方が涙を流されていました。感動を覚えたのは私だけではないと思います。市の幹部職員も同じ感動を覚えたものと思います。

高校生議員の皆さんには、この場に立つと手を挙げたその勇気に敬意を表しますし、また、この議場という大きな舞台で堂々と、そして、立派な発言をされたそのことに、自信を持って、これからの人生を歩んでいただきたいと思います。そして、皆さんの中から、将来市議会議員に立候補していただく方が出られたら大変うれしく思います。

終わりに、本日の高校生議会に御参加をいただいた高校生の皆さん、そして、御協力をいただきました各学校の先生、保護者の皆様方、執行部の皆さんに、改めて感謝を申し上げますとともに、高校生議員の皆さんの輝かしい前途を御祈念申し上げ、閉会の挨拶といたします。

これをもちまして、令和６年度下関高校生議会～スタートは私たちの声～を閉会いたします。

―１６：００散会―